

劇作家・演出家・俳優

渡辺えり氏 講演会

テーマ

「女性の力」

～女も男ももっと女性的に生きることは
できないだろうか～

人生100年時代を迎えました。
講演会を明日の元気につなげましょう！

日時

令和8年 **11月20日(金)**
18時30分開場 19時開演(終演20時)

場所

さいき城山桜ホール 大ホール

入場料

一般 **1,000円**(全席自由)
※65歳以上・高校生以下は**500円**
※当日券は+500円

チケットはさいき城山桜ホールにて販売

その他 書籍やCDの販売ブースもあります。



総合司会

寄り場の学校代表
野々下留美

平成27年、佐伯文化会館に婦人会のみなさまと渡辺えりさんをお迎えして早いもので11年。あの日の素敵な出会いから11年の時を経て、今度はさいき城山桜ホールで再会できることをとても楽しみにしています。



渡辺 えり (Watanabe Eri) 氏 プロフィール

1955年、山形県生まれ。

舞台芸術学院、青俳演出部を経て、1978年に劇団を“劇団2〇〇”を旗上げ。その後“劇団3〇〇”、“ユニット企画集団 宇宙堂”を経て、現在“オフィス3〇〇”として活動。

1983年に『ゲゲゲの怪獣 逢魔が時に揺れるブランコ』で岸田國士戯曲賞、1987年『醜の女 まだ見ぬ海からの手紙』で紀伊國屋演劇賞を受賞。

自身のプロデュース公演以外に新橋演舞場公演の主演を務めるなど客演舞台での人気も高く、映画『shall weダンス?』では1996年報知映画賞助演女優賞、1997年日本アカデミー賞最優秀助演女優賞を受賞。

近作の公演に、渡辺えり古稀記念2作品連続公演『鯨よ！私の手に乗れ』『りぼん』(2025年作・演出)、ほか『肉の海』、『私の恋人』、『さるすべり』など。

他作の戯曲の演出作品として清水邦夫作『僕らが非情の大河をくだる時～新宿薔薇戦争～』(2022年演出)、唐十郎追悼公演『少女仮面』(2025年演出)、東北にゆかりある文人を描いた作・演出作品に、高村光太郎の半生を描いた『月にぬれた手』、光太郎と親交のあった宮沢賢治に焦点をあてた『天使猫』がある。最新作はミュージカル『シークレットステージ』。

2027年2月～3月にはシベリア抑留者の女性たちに焦点を当てた問題作、渡辺えり脚本・演出・出演をつとめる新作舞台『消えた花をさがして』の上演が控えている。

2018年3月より2022年2月まで日本劇作家協会の会長を務め、コロナ禍においては演劇緊急支援プロジェクトの中心を担った。現在日本演出者協会理事。

主催

仲町リトルシアター寄り場の学校・NPO法人 さいき劇場

☎ 090-5944-0816(野々下) ✉ yoriba2025@gmail.com 🌐 <http://yoribasaiki.com>

協力

佐伯市放課後児童クラブ支援員連絡協議会、佐伯こども市民ミュージカル

後援

佐伯市教育委員会